



視察研修先・神奈川県大和市

視察研修項目・大和市文化創造拠点シリウスの見学

研修先対応者（名刺等）・研修風景（写真等）・研修資料等

＊名刺・写真・資料等＊



視察研修先・東京都港区

視察研修項目・港区立東町小学校の国際理解教育の取組について

研修先対応者（名刺等）・研修風景（写真等）・研修資料等

\*名刺・写真・資料等\*

港区 区議会事務局  
議会広報担当



**渡邊 友香**  
MATANABE Yuka

〒105-8511 港区芝公園一丁目5番25号  
TEL: 03-3578-2111 内線: 2920  
FAX: 03-3578-2932  
Email: watonabe-yuka@city.minato.tokyo.jp  
URL: https://www.city.minato.tokyo.jp

港区 教育委員会事務局  
学校教育部  
学務課長



**鈴木 健**  
SUZUKI TAKESHI

〒105-8511 港区芝公園一丁目5番25号  
TEL: 03 (3578) 2725  
FAX: 03 (3578) 2759  
Email: suzuki-takeshi@city.minato.tokyo.jp  
URL: https://www.city.minato.tokyo.jp



港区議会議員  
自由民主党議員団  
幹事長  
**小倉りえこ**

港区教育委員会事務局学校教育部  
教育人事企画課教育人事担当



シンドウ ナオキ  
**新藤 直樹**

〒105-8511 港区芝公園一丁目5番25号  
TEL (03) 3578-2111 内線 2756  
FAX (03) 3578-2759  
shindo-naoki@city.minato.tokyo.jp

港区教育委員会  
指導主事



**三戸 大輔**

〒105-0001 港区虎ノ門3丁目6番9号  
TEL 03(5422)1541  
FAX 03(5422)1547  
E-mail  
mito-daisuke@city.minato.tokyo.jp



報告書 2

視察研修先・文部科学省初等中等教育局

視察研修項目・ 特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業について

研修先対応者（名刺等）・研修風景（写真等）・研修資料等

\*名刺・写真・資料等\*



視察研修先・静岡県浜松市

視察研修項目・多文化共生について

研修先対応者（名刺等）・研修風景（写真等）・研修資料等

\*名刺・写真・資料等\*



視察研修先・神奈川県大和市
視察研修項目・大和市文化創造拠点シリウスの見学
報告者・小橋 薫
<p>「シリウス」の視察については、一言でその規模に圧倒されてしまいました。</p> <p>当初、簡単な施設概要説明を受けるも規模や内容観点等に町の規模の差を感じたところである。今回の視察の大きな目的は、本市図書館の大規模改修における改善点の為と認識している所です。「シリウス」が何故、日本一の図書館と言われているのか?その点についての研修であるところです。やはりその規模、取り組み、コンセプトが確立した中での運営等が今日の「シリウス」を支えて来たと考えます。しかしながら本市図書館の今後の姿を考えたときにヒントとなる素材も見受けられたと感じている所です。このことについては、議論の余地は十分あると思っていますところ。さて、シリウスに本市と同じ指定管理者事業者が存在しています。また、施設全体では 6 事業者の指定管理者が運営している所です。規模の大きさや得意分野での管理・運営方式であります。図書館管理者に於いては特に図書(本)の配置や棚などの設計には十分興味を引くところであります。自由度満載な配置、貸出・返却システムなど本市においても参考になる面が多々あると考えるところ。す。</p> <p>視察のメインは終始、各フロアの機能説明であり、また、平日でも多くの利用者が見受けられています。特に、高齢者や、各サークル団体等活発に利用されている状況には目を見張るものがあります。幼児等の親子でのコミュニティーの広場はまさに公園デビューの室内版というところであります。図書館機能を中心とした多目的機能を備えた「シリウス」の機能別設計及び管理運営の利点を当市図書館改修の参考になれば幸いと感じたところ。す。</p>

視察研修先・東京都港区
視察研修項目・港区立東町小学校の国際理解教育の取組について
報告者・小橋 薫
<p>港区における「国際理解教育の取組み」の研修については、まず、港区の外国人環境が特異と感じたところである。大使館、外国企業等他には無い環境である事が今日の取組みに繋がったと考えます。そのことから、平成 14 年から国際理解教育の一環として英語活動の実施また、これを基に平成 18,年から小学校 8 校、平成 19 年からは全 18 校で教育課程に「国際科」の位置づけるとともに外国人講師(NT:ネイティブ・ティチャー)を各校に配置し、英語による実践的コミュニケーション能力の基礎を培ってきている。また、区内中学校も平成 18 年度から英語によるコミュニケーション能力を図ることを目的とする週 1 時間の「英語国際」が加えられて週 5 時間の英語教育を実施している。</p> <p>また、海外派遣の実施では、平成 19 年度から区内小中学の児童・生徒をオーストラリアに派遣。外国の自然、文化及び社会等に直接触れることで、コミュニケーション能力の実践の場の提供及び自国、他国を尊重する態度の育成を図っている。</p> <p>区内大学との連携では、テンプル大学との連携事業を実施。国内プログラムや異文化体験授業の実施。夏季休業中に実施した外国人講師による国内留学プログラムには、海外派遣に参加できなかった児童・生徒の参加により異文化の理解を深めている。国内外での活動を積極的に行うことにより多くの児童・生徒に対しての取組みがうかがえ参考にすべき点が多々見受けられたところである。</p> <p>更に、放課後英会話教室の実施を本年度から取り組んでいる。区内中学生を対象に「放課後英会話教室」の実施。事業は TOELJunior を活用した 50 分間オンラインレッスンを通して、生徒の英語での発話機会を確保し、実践的コミュニケーションの向上、自国の文化だけでなく諸外国の文化や価値観の多様性に触れる機会の提供を目的としている。このことは子供たちの社会観や世界観の視野や考えが広がりより将来の人生設計やグローバル人材として期待できると思う。最後に、帰国児童や生徒に対しての生活習慣や文化、考えの違いなどの指導・教育にも力を注いでいました。地方の我々では港区の環境下ようになる日を見ることのないかもしれません。しかし、この取組みの何かを取り入れれば本市の児童・生徒の国際化に繋がる一歩が見えてくる気がします。</p>

視察研修先・文部科学省初等中等教育局
視察研修項目・特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業について
報告者・小橋 薫
<p>この行政視察は、文科省に伺った所です。国内でもまだ本格的に取り組みを行っている小中学校が少なくまた、特質な分野であり、日本自体が取り組みに遅れていると感じている所があります。また、文科省としても取り組み事業を国内大学、教育委員会等の実証研究を委託している。委託事業内容としては、・特異な才能のある児童生徒の理解のための周知・研修の促進・特性を把握する手法・プログラム等の情報収集・実証研究を通じた実践事例の蓄積等である。このことからまだまだこの「特異な才能」に関しては遅れている分野であることが伺える。しかし、これからの学校教育の現場においては避けて通ることが出来ないと考えます。具体的に、「特定分野に特異な才能のある児童・生徒」とは・・・</p> <p>1. 特異な才能のある児童生徒をめぐる現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特異な才能のある児童生徒は、言語・数理・科学・芸術・音楽・運動など様々な領域に高い能力を示す。</li> </ul> <p>2. 指導・支援に関する課題</p> <p>○学習に関する状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業での学習内容が知っている事ばかりでつまらない。</li> <li>・発言すると雰囲気壊してしまうのでわからないふりをする。</li> <li>・資質・能力を伸ばせない。充実した学びが出来ない。</li> </ul> <p>○学校生活に関する状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的側面が年齢不相応に発達しているため、同級生との会話や友人関係構築に困難。</li> <li>・教師との関係で課題を抱える場合もある。</li> <li>・集団の中でトラブルや孤立が発生する場合もある。結果、不登校になる可能性がある。</li> </ul> <p>○特異な才能のある児童生徒を取り巻く状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師む・学校・教育委員会による効果的な支援が行われている実態もあるが、各主体の理解や体制に左右。</li> <li>・興味・関心に合った学校外の学びにアクセスできない(地域偏在)や、情報が届かない状況。</li> <li>・環境整備に当たっては、国民的な合意形成の視点も重要。</li> </ul> <p>以上の課題が有識会議での概要で売る。このことから、この分野は大変奥が深く初期段取り組みが大きなポイントと考察します。</p> <p>本市の、細かい現状把握を実施しどの様な対応が望ましい姿となるのかが今後の課題と思うところ です。</p>

視察研修先・静岡県浜松市

視察研修項目・多文化共生について

報告者・小橋 薫

浜松市の多文化共生に関しては、国土縮図型政令都市の特性を最大限に生かした多文化共生都市としての機能面や組織の充実更に、市民の理解向上が発揮されている。約 2 万 8 千人の外国市民が在住、特にブラジル人がもっとも多く製造業への雇用が高い。在留資格も、永住者 12,123 人、定住者 5,117 人と約 6 割近くを占めている。その中で、共生を具体的にどの様に推進を図ってきた背景には様々な施策を講じて来た所である。本年度については、「浜松市多文化共生都市ビジョン」第 3 次計画期間である。その中で「外国人材の活躍をさらに促進し、多様な人材とともに都市を発展させる価値創造型の多文化共生社会を目指す」ある。

連携業務委託として、公益財団法人浜松国際交流協会がある。1990 年代からの長い歴史を持ち、同年 4 月から改正入管法施行(定住者の創設)が大きなスタートとなっている。現在では、委託先と市の連携が取れておりさまざまな課題解決を始め安定した業務が進められている。財団の活動範囲も幅広く展開しているところである。

本市との状況とは比較対象にはならないかもしれないが、今後も発展する本市の状況を鑑みれば市だけの対応だけでは行き詰る結果も想定される。今後は、小規模からのスタートでも構わないが、教育機関の協力を得ながら市民有志等の「国際交流団体」の設立も必要と考えます。多種にわたる相談業務、言葉の多言語対応等々浜松市を手本にしながら本市のあるべき姿を模索しなければならないと感じる所です。

視察研修先・神奈川県大和市
視察研修項目・大和市文化創造拠点シリウスの見学
報告者・生本富士代
<p>視察の目的は、恵庭市図書館が老朽化のため改修するにあたり、参考先進地として文化創造拠点シリウスの見学となった。またシリウスの指定管理者が恵庭市と同じ(株)図書館流通センターであることに注目し、どのような運営内容なのかを学ぶ目的である。</p> <p>シリウスの管理運営は、大和市内の民間企業 6 社で構成されている共同事業体「やまとみらい」の指定管理となる。6 社とは、(株) 図書館流通センター、サントリーパブリシティサービス(株)、(株)小学館集英社プロダクション、(株)明日香、(株)ポーネルド、横浜ビルシステム(株)である。シリウスは設立から今年で満 7 年を迎え、年間来場者数は 300 万人。大和市は鉄道の利便性が良く「街を良くしよう」と、まちづくり構想を掲げ、「図書館があつたら人が途切れない」との発想のもと市民から 341 件のパブリックコメントを集め、H26 年に着工し、H28 年に複合施設としてオープンに至った。公共施設としての面積は 95%を行政が 5%を民間が持つ。建設にあたり決めた事は①全館図書館であること。ICT 化を図り各階「自動貸出機」を設置している。②市民の居場所として、多少のおしゃべり OK、蓋付きドリンクであれば飲み物の持ち込み OK とし「健康」というコンセプトで複合化を図っている。</p> <p>1 階は芸術ホールで客席数 1007 席。音漏れなしの音響施設。作品展示のギャラリーもある。</p> <p>2 階は市民交流のフロア。85 席の有料席には有線 RAN や電源、印刷機もありビジネス向き。</p> <p>3 階は大和こどもの国。ちびっこ広場、相談室、保育室(子どもの預かりサービスも可能)。</p> <p>4 階は健康がコンセプト。健康チェックもでき、健康テラスでは屋外での読書ができる。</p> <p>5 階は調べて学ぶ図書館。77 席の静かな環境で読書をするための部屋はモノトーンで統一。</p> <p>6 階は仲間と集い学ぶ生涯学習センター。壁がスケルトンの自由空間。会議室や講習室等有。</p> <p>視察した当日も多くの人で賑わっていた。幅広い年代の方々が利用され、それぞれ自分の時間を楽しく過ごされているようであった。多世代型居場所作りの目的が果たされていることを実感する。様々なコンセプトに基づいた各階は、魅力たっぷり、多くの仕掛けが込められているとの説明であった。毎日来館しても、おそらく飽きることはないであろう。図書館でイベントに参加して、友達を作って、本を借りて帰る。行き帰りの道りも健康につながるという流れができているようにも感じる。</p> <p>今回の視察を参考に、恵庭市図書館の充実には是非とも取り入れて欲しいと思ったことは、自動貸出機や、自動返却コーナーといった ICT 化の推進をさらに図って欲しい事と、静かな環境で読書や閲覧をするための部屋を設けていただく(個々のブースとして机を設置する)ことを切に感じたところである。シリウスは大和駅から徒歩 3 分の圏内にあり、飲食店や商業施設等、賑わいを感じる環境でもあった。まちづくりの成功例としても大いに参考となる大変有意義な視察内容であったと思う。</p>

視察研修先・東京都港区
視察研修項目・港区立東町小学校の国際理解教育の取組について
報告者・生本富士代
<p>視察目的は、近い将来千歳市ラピダスの進出にあたり外国人技術者が家族を伴って恵庭市に住む状況となった時の教育支援策を、今から準備するための調査研究として、先進的な英語教育を行っている港区立東町小学校が選出された経緯となる。</p> <p>実際には港区立東町小学校への訪問ではなく、港区教育委員会での行政側から説明を受ける事となった。港区では「港区グローバルスクール構想」に基づき、H18年度から国際科の授業を実施し、全国に先駆けた国際理解教育の取り組みを推進してきた。一般的にはH22年度からの学習指導要領で、小学校5、6年生の英語授業が始まったが、港区はそれ以前から取り組んでいたことになる。</p> <p>英語教育に力を入れる背景として、外国の大使館が多く立地する港区の特性や、湾岸地域に隣接する高層マンションへ子育て世帯が転入してきたことや、帰国子女が多くいる地域性もあるとの分析である。</p> <p>視察内容では、いかに港区小中学校の生徒の英語力の高さが全国平均を上回っているか、数字的にも、環境的にも優れている点や、英語プログラムの充実について多くの説明を受けた。例えば、NT(外国人教師)の全時間派遣や、80名の小中学生海外派遣事業、中学校で希望する生徒には放課後にオンライン英会話教室を実施している等様々な取り組みに、とても驚きを隠せなかったというのが率直な感想である。</p> <p>翻って、恵庭市の教育体制を考えた時、はたして同じ様な取り組みが可能かどうか考えてみると、現状のALTに英語授業を担当してもらうことで充分なのではないかと思える。今以上に高度な英語教育を求めるのならば、得意な生徒と苦手な生徒との間に、学習格差が生じてしまう懸念があるからだ。個々に(各家庭での取り組みとして)塾や家庭教師を取り入れることでの対応なのかなとも思える。</p> <p>本題である外国人の子ども達への教育支援を考えた時、港区の取り組みについて、参考にできることがあるとしたら、日本の伝統的な遊びを経験させることや、日本文化に親しむ時間を児童生徒同士で持つことが大切なのではないかと感じたところである。もう一点参考となったことは、港区教育委員会の職員に、現役に近い年代の教員経験者が学務課長を担われていたことである。教員の働き方に対しての経験や、学校現場の状況の理解等、より現場の状況がわかる人が行政側にいるというのは大きな強みである。昨今の教育現場での多様化する課題に対して、より問題認識も深いのではないかと推測したところである。高度な教育を実践されている公立学校の先進的取り組みを、今回視察できたことはとても貴重な経験となったと思う。</p>

視察研修先・文部科学省初等中等教育局
視察研修項目・特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業について
報告者・生本富士代
<p>視察の目的は「特定分野に特異な才能のある児童生徒」を支援する取り組みを行っている自治体の事業内容や、学校での支援内容を参考にしたいということであったが、先進的な自治体が見つからず、直接文部科学省への訪問となった次第である。</p> <p>国が行う「特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業」というのは、今年度からの新規事業として、8,000万円の予算を計上し取り組んでいるとの事。事業内容の趣旨は、今までその様な児童生徒に対して学校現場においての指導・支援の取り組みがなされてこなかったもので、今後は、学校外とも連携し、きめ細かな指導・支援を行っていく必要があるとのこと。事業内容として①. 理解のための周知・研修の促進 ②. 情報収集 ③. 研究による実践実例の蓄積。それぞれ三つの事業を全国の大学や教育委員会や民間団体に事業委託して、調査研究しているとの説明であった。今年度末にそれぞれの団体より研究成果報告を受ける予定になっているとの事である。</p> <p>「特異な才能のある児童生徒」の現状や課題、今後の取り組みの基本的な考え方や、施策内容について、国の方針として様々な説明を受けた後に、私たちが事前に用意した質問内容に担当者が答えるという視察内容であった。私が一番聞きたかった質問は、「特異な才能のある児童生徒」は全国で何人いるのか？また、「特異な才能のある児童生徒」の定義というのはどういった内容なのか？という疑問であった。担当職員からは、国では人数の把握はしていないし、これからもするつもりはないということであった。なぜならば、定義が無いので把握はできないとの理由である。少々疑問が残る回答であった。そうであれば、地方自治体としてこの事業に対してどう取り組みれば良いのか、学校現場としても判断に苦しむ状況なのではないかと、正直感じたところである。何か国と地方との認識の格差を感じる場面であった。</p> <p>現状として「特異な才能のある児童生徒」が潜在的に存在するのは承知のことではあるが、学校現場において取り組まなくてはならない事は、そのような児童生徒が不登校になっていないかどうか、またクラスの中でいじめの対象になっていないかということ、教育委員会や学校現場の先生方には注視してもらいたいところである。</p> <p>恵庭市にどれくらいその様な児童生徒がいるのか、わからない状況ではあるが、少なくともその事で悩んでいる親子がいた時には、迅速な対応で寄り添った相談支援体制を組んでいただきたいと切に思う文部科学省の視察であった。</p>

視察研修先・静岡県浜松市

視察研修項目・多文化共生について

報告者・生本富士代

視察目的は、昨今の少子高齢化や人手不足が深刻化する中、外国人労働者は、地域経済の支え手となっている現状であり、恵庭市においても外国人の住民登録者が増えつつある状況といえる。そこで多文化共生事業において、具体的な受け入れ体制の強化を図るために、先進地として浜松市の取り組みを参考とする事となった。

浜松市の人口約 80 万人に対して登録されている外国籍の人数は約 28,000 人との事人口比で 3.4%の割合となる(国の平均は 2%)。浜松市における多文化共生事業を推進する拠点は、浜松市多文化共生センターという施設と、浜松市外国人学習支援センターという二つの施設において、様々な活動や相談支援事業等が行われている。

そこでは無料の日本語教室や、地域における人材育成(コーディネーターの養成)や各種イベント等が開催されている。市内には多言語化された案内表示版が設置され、市からの発送文書も多言語化を図り、関係団体との連携や就労相談等、市内に住む外国人の生活支援に対して、多くの人に関わる手厚い取り組みに感銘を受けた。

なぜ、行政でこのような地道な活動が継続的に推進できているのかというと、浜松市の外国人は、長期滞在可能な在留資格者が多く、日本に家族や親族で来日しその後、定住化する現状とのことであった。そのため市としては、「浜松市多文化共生都市ビジョン」を掲げ、市の 5 か年計画の中にもしっかりと組み込み、外国人が安心して生活できるよう、課題解決型の多文化共生事業を展開しているとのことであった。

恵庭市の外国人は、ほぼ留学生と技能実習生で、在留期間が短く(3 年~5 年以内)で入れ替わる。現在の状況として、外国人の登録は 776 人(R5/10 月末現在)4 月の時点で、578 人だったのが半年で約 200 人増となっている。浜松市との体制の違いを理解しなければならないが、外国人登録者が増えつつある状況というのは確認できる。

今後、恵庭市でこの事業を展開するためには、仕事や日常生活に必要な日本語を修得できる日本語教室の充実を図っていくことと、多言語に対応できる相談支援窓口を設置する事が重要なのではないかと考える。いずれにしても、それをどこの部署で、誰が担当していくのかが重要で、今後しっかりと体制づくりについて協議していく必要があるのではないかと思う。

様々な機関との連携や、ボランティアの方々の協力や、スキルを持った人の協力等、この事業の推進は、外国人の感覚がわかる人が長く携わること、そして持続していくことが大切であるとの担当者の言葉が印象に残っている。まさにその通りで人が大事であるということであった。恵庭で働きたいという外国人が、その能力を最大限に発揮できるような支援体制の必要性を痛感した貴重な視察であったと思う。

### 報告書 3

視察研修先・神奈川県大和市
視察研修項目・大和市文化創造拠点シリウスについて
報告者・市川慎二
神奈川県大和市（令和5年10月25日）午前10時40分～正午
<p>「大和市文化創造拠点 シリウス」は、図書館、芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内こども広場を中心とした文化複合施設です。子どもから大人まで多くの市民に、芸術文化や生涯学習の素晴らしさ、新しい知識・人々の心弾む出会いをお届けし、皆様の心に一体感を生み出す場として誕生しました。また、4つの施設はそれぞれの個性の融合により更なるエネルギーを生み出し、未来に繋がる創造力を育むとともに、芸術文化活動の道標となり、日々地域との連携を図りながら、駅前に集まる芸術関連の施設や人材などの地域資源を活かし、地域の活性化と地域ブランドの確立に向け活動しております。現在は、年間来場者数が300万人で、平日でも8000人で、全ての館内が賑わっており、驚きを感じたところであります。</p> <p>更に地域の方々、活動団体からの問い合わせなど、幅広くボランティアの力添えいただきながら、事業運営に取り組んでおります。様々な好条件が整うなかで課題としては、将来的に次世代にどのように受け継ぐ戦略、手法を見出していかなければならないとのことでありました。</p> <p>特に、感動が生まれる 感性と創造の場では、メインホールがありバレエやミュージカル、日本舞踊をはじめジャズの演奏会まで、様々な演目に対応ができます。また、サブホールでは小規模な演奏会やダンス・演劇など様々なニーズに対応ができ、座席を収納し、平土間形式で空間をフルに使った講座やイベントも開催が可能です。このサブホールについては、新しい文化振興の拠点施設としての考え方に、参考となりました。</p> <p>もう一点は、図書館で、本に囲まれた空間で、誰もが心休まる時間が過ごせ、心身リフレッシュや地域交流の場となっております。健康コーナー・健康テラス・健康度見える化コーナーなど、読書の合間に身体を動かす空間が併設されておりました。</p> <p>終わりに、様々な課題解決に向けた体制の見直し、事業の検証等を行い、環境変化に応じ前向きに精力的に取り組まれていることに感銘を受けたところです。この度の調査では、環境の違いはあるものの、恵庭独自の郷土芸能や芸術文化支える体制と文化振興の拠点施設の重要性を目の当たりにし、賑わいづくりと更に活力あるまちまちづくりに向け取り組んで参りたいと思います。</p>

### 報告書 3

視察研修先・東京都港区
視察研修項目・港区東町小学校の国際理解教育の取り組みについて
報告者・市川慎二
港区 (令和5年10月25日) 港区議会午後2時30分～午後4時00分
<p>港区では、我が国の文化や伝統を理解し、日本人としての誇りをもつ一方で、異なる文化に触れ、自国の文化との違いを認め、尊重する態度を培う教育を推進するため、様々な国際理解教育事業を展開しております。</p> <p>教育課程特例校として、小学校では、「国際科」を全学年で週2時間実施し、中学校では、週4時間の通常の英語に加え、英語によるコミュニケーション能力を高めることを目的とした週1時間の「英語科国際」に取り組み、コミュニケーション能力の育成はもとより、発達段階に応じて段階的に、自国や他国の伝統や文化等についても学んでいます。また、実施するにあたり、全小中学校、全授業時間に外国人講師を派遣し、担任や教科担当と役割分担を行い、授業の充実に努めております。更に外国の自然、文化及び社会等に直接触れることでの海外派遣を実施しています。夏休み期間に、小中学生80名を様々な国に、年度別計画を立て国際理解や国際感覚の基礎を形成することを目指しています。</p> <p>放課後英会話教室では、中学校3年生を対象に TOEFL Junior を活用したオンラインレッスンより、実践的コミュニケーションを高めるなかで、令和5年度は122名が参加しています。</p> <p>令和の時代に入り、グローバル化が更に進展したことに伴い、これまで以上に国際社会に対応できる真の国際人の育成が求められています。そのため、区立幼稚園、小中学校を新たなステージへのグローバルスクールへと進化させていくとのことでありました。</p> <p>幼稚園期では、英語遊び、世界の絵本との出会い、英語を活用した創作活動、昔の遊び、小学校期では、英語体験活動の機会の創出、英語検定、国内留学プログラムの充実等、中学校では、海外修学旅行、英語スピーチコンテスト等ではありますが、どの過程においても言語を学ぶ、共生を学ぶ、伝統を学ぶ、の共通した目的に沿ったスクール構想になっており、国際社会に対応する真の国際人の育成に、取り組んでいることに感銘を受けたところです。</p> <p>一方で、港区は、外国人住民が人口の約7%を占め、外国系企業が立地しております。こうした中、区立学校に通う日本語能力が不十分な外国人児童・生徒や帰国児童・生徒に対して、日本語や各教科の学習指導及び日本での生活への適応などを支援するため、3つの中学校に日本語学級を開設しております。</p> <p>終わりになりますが、本市も外国人労働者の増加とともに、ラビタス関連における居住者の増加が見込まれることから、港区が進めている両面について参考になることが多く、今後の恵庭市の新たなまちづくりに、発想を変え、最善の努力をして参ります。</p>

報告書 3

視察研修先・文部科学省初等中等教育局
視察研修項目・特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業について
報告者・市川慎二
文部科学省初等中等教育局（令和5年10月26日）午前10時より  特異な才能のある児童生徒をめぐる現状では、言語・数理・科学」・芸術・音楽・運動など様々な領域に高い能力とともに、社会問題など特定事柄に強い関心を示します。 一方で、強い好奇心や感受性、過敏な五感、機能間の発達水準の偏りなどの認知・発達の特性を示すこともあり、障害を併せ有する場合もある。また、特性がゆえに、困難を抱えることもあります。 指導・支援に関する課題では、授業での学習内容が知っていることばかりでつまらないこと、資質・能力が伸ばせなく、充実した学びができない状況です。また、学校生活では同級生との会話や友人関係構築が困難で、集団の中でトラブルや孤立が発生し、結果、不登校になりがちになることもある。 今後の取り組みの基本的な考え方では、①多様な一人ひとりの児童・生徒に応じ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の一環として、支援策を検討する。②特異な才能のある児童生徒が抱える学習・生活上の困難に着目し、その解消を図るとともに個性や才能伸ばす考え方を検討する。特に留意点は、何らかの特定の基準や数値によって才能を定義しないこと、また、学校現場が分断されたり、特異な才能のある児童・生徒が差別対象となったりしないよう取組むことが重要です。 更に、義務教育段階では、学校内の多様性と包摂性を高めるなかで、一人ひとりの社会性を涵養し、飛び級について慎重に検討する。 高校段階では、学校外学修の単位認定などを活用する。 文部科学省では、実態がわからない状況もあり、令和6年度は特異な才能のある児童生徒の指導・支援に関する実証的な研究を実施し、実践事例を蓄積すべく、委託先9団体で取り組めるよう、予算要求をしているとのことでありました。 終わりになりますが、本市でも不登校の児童・生徒が増えつつあります。現在における具体的な施策が、大きく5点あることから、ひとつでも先行し取組むことが、必要と思うところでは。

### 報告書 3

視察研修先・静岡県浜松市
視察研修項目：多文化共生について
報告者・市川慎二
公益財団法人 浜松国際交流協会（令和5年10月27日）午前10時～  <p>多文化共生都市ビジョンの基本理念は、①異なる文化をもつ市民がともに、構築する地域②多様性を都市の活力と捉え、発展していく地域③誰もが安心・安全な暮らしを実感できる地域であります。また、施策の展開では、多様な文化をもつ市民がお互いに認め合い活発な対話や交流をともに、作り上げること。更に、多様性を生かして新たな価値・文化を生み出すこと等であります。</p> <p>これらを踏まえ、浜松市では平成20年に国際交流センターを多文化共生センターに改称し、コーディネーターなどの専門スタッフを配置し、外国人市民の定住化に対応した生活支援や相談業務などをはじめ、地域における多文化共生の取り組みや多様性を生かしたまちづくりに関連した事業を実施しております。</p> <p>相談・情報提供事業では、相談ワンストップセンターで、英語・ポルトガル語・ベトナム語・中国語・スペイン語ができる相談員が常駐し、メンタルヘルスも含めた様々な相談とともにテレビ電話での対応も行っております。</p> <p>地域共生事業では、自治会などからの相談対応、回覧文書の翻訳等の支援、また、共生のための交流行事・懇談会・説明会等のコーディネートをします。</p> <p>多文化防災事業では、災害時に備えるため、自治会・外国人コミュニティとの日頃から顔の見える関係を構築し、ネットワークの強化を図ります。</p> <p>この他にも人材育成事業、スポーツ・文化活動支援等に取り組んでいます。</p> <p>一方で、外国人市民が2万7千人と多く居住していることから、新しい世界が広がる学びの拠点「外国人学習支援センター」（ユートック）を設置し、外国人の子どもから大人までを対象に地域ボランティアと連携して「学習」と「交流」を総合的に行っております。毎日、多くの外国人が日本語を学びに通い、日本語ボランティアと外国人がおしゃべりしながら交流を深めたり、それぞれの異文化を体験しながら学んだりしています。</p> <p>終わりになりますが、本市も外国人労働者がここ数年で大きく伸びております。更に、今後はラピタス関連に関わる人々がこの地域に来ることが予測されるところです。</p> <p>本市も、多文化共生のまちづくりむけ、やっとはじめたところであります。</p> <p>今回の研修は、最も進んだ先進地ではありましたが、様々な点で参考になることが多く機会を捉え、まちづくりに向け提言し、稔るよう努力して参ります。</p>

視察研修先・神奈川県大和市
視察研修項目・大和市文化創造拠点シリウスの見学
報告者・新岡 知恵（市民と歩む会）
<p><b>【視察の目的】</b></p> <p>恵庭市立図書館は、老朽化に伴う大規模改修を控えており、本年度中に基本構想案を作成する予定である。近年、図書館機能として、文化情報の発信拠点であるとともに、市民の居場所の提供も求められている。文化複合施設としての「シリウス」を視察し、今後の恵庭市が目指していく図書館の参考としたい。</p> <p><b>【文化創造拠点シリウスの概要】</b></p> <p>大和市は人口約 24 万人。シリウスは平成 28 年 11 月オープンし、「図書館」「芸術文化ホール」「生涯学習センター」「屋内こどもひろば」の 4 つの機能を中心とした文化複合施設。地上 6 階の建物内は、全館図書館とし、館内どこへでも図書館の蔵書を持ち運ぶことが可能である。また階ごとのコンセプトに基づいて、図書も配架されている。年間利用者数は 300 万人。</p> <p><b>【考察と見解】</b></p> <p>大和駅から徒歩 3 分という好立地が、図書館機能の一つである「市民の居場所」にとって有利に働いていると感じた。館内には豊富な閲覧席の他に、民間のカフェ、市民交流ラウンジ（有料・ビジネス向け）、会議室、音楽スタジオ、子どもの遊び場、保育室（託児室）、読書室、市民交流スペース（無料・一般向け）と、多種多様な目的、利用者に対応した居場所を提供している。恵庭市においては、図書館、市民会館、市民活動センターえにあす、はなふるのセンターハウスなどにその機能が分散されている状況である。現在の恵庭市立図書館の規模では、シリウスの機能をすべて担うことはできないが、図書館として担う部分を精査しながら、参考にすべきだと感じた。</p> <p>また、毎週 5 回開催される市民講座の講師は市民ボランティア。視察時に行われていた講座にも多くの市民が聴講しており、大和市民の力を感じた。恵庭市図書館も歴史的に多くのボランティアの力で運営されてきた背景があり、今後においても市民と協働の図書館が求められると改めて感じた。</p> <p>恵庭市の図書館にはないが、子どもの遊び場の取組みとして参考になったのは、スタッフが単なる子どもの見守りではなく、子どもに遊び方の提案をしたり、子どもの預かりを担っている保育士が保護者との対話の中で相談を受けたりと、「顔見知り」の関係を築くように心がけているということ。ハコモノとしての場の提供だけではなく、人との触れ合いを伴った場になることが重要だと感じた。</p> <p>施設の充実に圧倒されると同時に、そこで活動するスタッフ、ボランティアの方の質の高さに学ぶことが多い視察となった。</p>

視察研修先・東京都港区
視察研修項目・港区立東町小学校の国際理解教育の取組について
報告者・新岡 知恵（市民と歩む会）
<p><b>【視察の目的】</b></p> <p>恵庭市では、近年外国籍の住人が増えており、多文化共生のまちづくりにおいて、国際理解教育の重要性は高まっている。港区における先進的な国際理解教育の取組を参考にしたい。</p> <p><b>【港区における国際理解教育の概要】</b></p> <p>港区は、多くの大使館や外国系企業が立地し、外国人住民が人口の約 7% という国際色豊かな現状を踏まえ、平成 18 年度から区独自の「国際科」の授業実施や小中学生の海外派遣など、国際理解教育を推進してきた。令和 5 年度からは、外国人児童に多様な教育の機会を提供するため、区内 2 つの小学校において、英語の能力を有した外国人児童に対して英語で授業を行う English Support Course を開設。</p> <p><b>【考察と見解】</b></p> <p>港区における「国際理解」とは、まずは自国である日本文化・伝統を学ぶことだと定義。「国際」というと、単純に海外に目が行きがちであるが重要な視点だと再認識した。また、国際科として英語教育を実践していく中で、当初は「スピーキング（話す）」中心に始めたが、徐々に「ライティング（書く）」の重要性に気づき、学習内容に変化が出てきたとのこと。ここでも、一見目新しい英語教育をしているのかと考えがちだが、堅実な取組をされていると感心した。港区の取組は、学習意欲の高い子どもはどんどん力を伸ばすだろうが、そうでない子どもは取りこぼされてしまわないかと懸念したが、子どもの同士で教え合う形ができているとのことであった。教える方も、教えられる方もお互いに学びがある有意義な活動だと感じた。恵庭市でも授業の中で実践してほしい。港区という地域性から、比較的経済的に恵まれ、学習意欲の高い子どもたちが集まっているのではないかと想像できるが、仮にそうだとした場合、全国学力テストにおける英語の平均が全国と比べて大きく上回っていることから、地道な取組が結果として現れていると感じる。</p> <p>「国際科」の取組は、独自予算で行っているとのこと、恵庭で実施することは予算的な課題が大きいと感じた。外国籍の子どもには、通級として日本語教室も開設しているとのことだが、恵庭市では近年増加している発達障害に関連する通級への要望に応えることが優先される状況にあり、今後外国籍の児童生徒への学習支援が必要となった場合には、通常学級の中での支援になるのではないかと考える。</p> <p>いずれにしても、その地域性を踏まえた上で、どんな子どもたちを育てたいのかという、しっかりとした教育理念を持って実践する事が重要だと痛感した。</p>

視察研修先・文部科学省初等中等教育局
視察研修項目・特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業について
報告者・新岡 知恵（市民と歩む会）
<p><b>【視察の目的】</b></p> <p>昨今、様々な理由から不登校になる児童生徒が急増している。不登校の理由の一つに、特定分野に特異な才能があるがゆえに、生きづらさを感じている子どももいると考えられる。そのような子どもへどのように支援すべきなのか。文科省の事業から学びたい。</p>
<p><b>【特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業の概要】</b></p> <p>令和 3 年度中央教育審議会の答申の中で、子どもの多様化が取り上げられ、それを受ける形で有識者会議による「特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方」がまとめられた。会議の中では、特異な才能のある児童生徒をめぐる現状、指導・支援に関する課題、今後の取組などが議論された。その議論に基づいて、令和 5 年度から文科省では推進事業を開始し、全国で 9 団体が国の補助を受け、事業を実施している。</p>
<p><b>【考察と見解】</b></p> <p>視察に向かう前に、まず「特定の分野に特異な才能を持つ子ども」とは、どのような子どもを指すのかイメージが持てなかったが、文科省では、ラベル付けや過度な競争を避けるために、例えば IQ など、特定の基準や数値によって才能を定義しないとのこと。支援対象者を特定しない中で、どのようにこの事業を推進するのかという疑問が生じたが、新学習指導要領におけるキーワードである「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を実現するため、支援を必要とする子どもの中に、特定の分野に特異な才能のある子どももいることをまず認識する必要があるからだと理解した。</p> <p>事業内容としては、それら子どもたちの理解のための周知・研修、子どもたちの特性を把握する手法・プログラム等の情報集約、実証検証を通じた実践事例の蓄積である。支援が必要な子どもがいた場合、そこへ教員の配置を可能とする予算措置も無いなど、事業においては、対象児童生徒への具体的な支援事業はない。今後の事業展開としては、実証研究を積み重ねた上で、具体的な支援策を示したいとのこと。さらにその先には、教育制度として整備しなければならない場合もあるかもしれないということで、まさに手探りの段階であると感じた。</p> <p>感想としては、従来から教員や関係者が、学校現場で様々な子どもたちと向き合い、取組んできたことと何ら変わらないと感じた。多様化する子どもたちの中に、特異な才能があるという一つの傾向を有する子どもたちがいるという認識を持つことは必要だが、支援を必要とする子どもたちに、必要な支援をしていくという取組は変わらないと感じる。ただし、特定の分野に特異な才能のある子どもたち特有の支援については、意識をしながら実践を積み重ねていくことは必要だと考える。</p>

視察研修先・静岡県浜松市

視察研修項目・多文化共生について

報告者・新岡 知恵（市民と歩む会）

**【視察の目的】**

恵庭市では、技能実習生や留学生など急増しており、外国人は恵庭市の人口の約1%の700人ほどが在住している。今後も、新たな企業進出や労働力不足などの理由から、外国人が増えることが予想され、ますます多文化共生の重要性は高まる。恵庭市において、多文化共生の取組は始まったばかりだが、外国人との共生の実践を積み重ねてきた浜松市への視察を通して、今後の取組の参考としたい。

**【浜松市における多文化共生の概要について】**

浜松市約80万人の人口のうち、約3.5%にあたる28,000人が外国人住民。その国籍は、ブラジル、フィリピン、ベトナム、中国、ペルー、インドネシア、韓国など。在留資格別では、永住・定住者が約7割を占め、その他は技能実習、日本人の配偶者、留学など。多文化共生事業については、国際課が担当しているが、実際に外国人への対応としては、浜松市国際交流協会に委託し多文化共生センターが担っている。

**【考察と見解】**

ものづくりの街として発展してきた中で、外国人労働者の果たす役割が歴史的に大きい浜松市とは、恵庭市における外国人との共生の姿は大きな違いがあると感じた。

まずは、外国人の在留資格の違い。浜松市は、永住・定住者が多いが、恵庭市はその多くが技能実習生である。居住する期間の長さによって、自ずと外国人の求める支援も、目指す共生の姿も違ってくる。技能実習生や留学生は、短期滞在になるため、初歩的な言語理解のための支援や生活習慣やルールについての支援が中心になるのに対して、浜松市の場合は、長期間居住しているため、初歩的な言語支援よりは、就職や進学・健康面での支援など、日本人と変わらないとのこと。もちろん浜松市でも言葉の問題は重要であり、様々な行政サービスは多言語で対応しており、6か国語で情報提供。また、日本語教室も無料で提供している。

災害時対応では、国別のコミュニティがあるので、コミュニティ別にリーダーを育成し、そのリーダーを中心として動く体制が整っているとのことであった。恵庭でも、災害時には言葉の問題もあり、外国人の方々の不安は大きいと想像できる。外国人の安全を守るための体制づくりも必要だと痛感した。

現在の浜松市と恵庭市では、多文化共生の在り方に大きな違いはあるが、浜松市が辿ってきた過程からは学ぶものが多いと感じた。また、多文化共生を担っている国際交流協会の取組では、スタッフの量・質ともにその充実ぶりには感嘆した。結局は、役割を担う「人」が、そのサービスの質を左右するのだと痛感した。非常に参考になる視察であった。

視察研修先・神奈川県大和市
視察研修項目・大和市文化創造拠点シリウスについて
報告者・石井美季
<p>＊議員個々の考察と見解＊</p> <p>高齢者が元気な都市として名高い神奈川県大和市。健康都市宣言については4年前に会派で視察させていただきました。その時から、ずっと「一度行ってみたい」と思っていた施設に今回訪れることができ、感慨ひとしおです。大和市は、市内に8つの駅があり、市民のほとんどが最寄り駅まで歩くことが苦にならない距離に住まっています。その駅の一つである大和駅から遊歩道を歩いて3分で行けるのが「大和市文化創造拠点シリウス」です。6階建てで「市立図書館」「やまと芸術文化ホール」「大和市生涯学習センター」「大和市屋内子ども広場」の4つが複合し、さらに、民間の事業者による飲食店・ショップや神社など11の民間事業者が一緒にあります。そこには国内でみられる全天で最も明るい星の名を持つにふさわしい感動がいくつもありました。4つの施設はそれぞれの個性を生かしつつ互いに融合し様々なニーズに合わせて過ごすことができる環境づくりを行っており、小さな子どもから高齢のかたまで、また、静かに集中して何かを考えたいとか、少し体を動かしたいとか、話したい、聴きたい、見たい、歌いたい、奏でたい、踊りたいなどが互いのストレスにならずに叶い、そしてそのあらゆる活動に役立つ情報・資料図書にすぐに手が届く、空間でした。ホール・会議室等の年間稼働率は100%だそうです。私たちがうかがった日も様々な市民活動や健康都市大学の講座が行われていました。芸術文化ホールのメインホール(1007席)では「就活セミナー」ならぬ「終活セミナー」が催されており、大勢の高齢者が行列を作っていました。天井の溝を動く壁が迷路のような順路をつくるギャラリーでは展覧会が行われていました。自分自身と向き合う時間に、少し他者と競う要素の催しが混ざってくる感じが印象的でした。展覧会の作品もコンペになっていました。絵本コンクールでは自分の作品が本当の絵本になって、市内の人に読んでもらえる機会がある、など、やる気がそそられるアイディアがあちこちにあることを想像させられました。</p> <p>運営主体は指定管理者の「やまとみらい」で、恵庭市立図書館の運営もしてくださっている株式会社図書館流通センターや、花の拠点はなふるセンターハウスにある子どもの室内遊び場「えにおファミリーガーデンりりあ」の遊具でおなじみの株式会社ボーネルンド、サントリーパブリシティサービス株式会社、株式会社小学館集英社プロダクション、横浜ビルシステムの6つの事業者からなる共同事業体です。「シリウス」のほかに大和市内の6つの文化施設の管理運営を担っています。</p> <p>恵庭市立図書館は、大規模改修の時期を迎えています。いろいろな想像が膨らむ視察研修となりました。</p>

視察研修先・東京都港区
視察研修項目・国際理解教育事業について
報告者・石井美季
<p>＊議員個々の考察と見解＊</p> <p>港区の区立教育センターはたくさんのビルが立ち並ぶ都会の中の都会、虎ノ門ヒルズの近くにあります。</p> <p>いただいた港区を紹介する資料は日本語・English・中文・ハンゲルの 4 つの言語でつくられていました。区内在住の外国人は 2 万人、大使館や外資系企業の数が多く、区立の小学校・中学校には大勢の帰国児童生徒がいるそうです。様々な国や地域の子どもたちが周りにいる環境の中でそれぞれの生活習慣や文化、考え方の違いなどを自然に学びあうとのことでした。そしてちょうど私たちが視察に訪れた前後に、港区率学校の子どもたちの修学旅行の行き先が海外になる、と話題になったところでした。</p> <p>そのような港区の子どもたちは国際理解教育の一環として国際科・英語科国際の授業において英語のコミュニケーションの力を培っています。異なる文化に触れることで、自国の文化のことについても深く学ぶことになる、というのは納得の理論でした。</p> <p>外国人の子ども向けの EnglishSupportCourse もまた然りかもしれません。多様な教育の機会をもち、日本のことも自国のことも大切に思う心が日本での暮らしをよりゆたかにすると思いました。</p> <p>恵庭市における国際理解教育も、これまで以上に海外からの移住者が増える、あるいは住みやすさを感じていただくためにも、また、元からの住民に互いの理解を深めて、地元の良さを再確認していただくためにも推進することが望ましいと思いました。</p>

視察研修先・文部科学省
視察研修項目・特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業について
報告者・石井美季
<p>＊議員個々の考察と見解＊</p> <p>「ギフテッド」という言葉が近年はこのように言い方が変わってきた、ということです。様々な特性による生きづらさを抱え、学習や学校生活の中で困りごとがあるなどで、不登校の原因の一つにもなるため、認知度を上げるべきと考えていました。</p> <p>この事業は今年度から調査研究が始まったところで、全国の9つの機関が携わっています。特異な才能の定義は現在設けず、すべての子どもたちがどんな特性があってもその個性を受け入れられ、得意なことを伸ばし、困難なことには支援を受けることが普通になるための事業という風に受け止めました。</p> <p>保護者や教員に支援が必要な子どもの存在を知ってもらう、相談体制をつくる、適切な支援のあり方がととのえられるなど、この先調査研究の検証が行われて、どのように子どもたちの環境が整えられていくか期待しながら待つこととなります。</p>

視察研修先・静岡県浜松市
視察研修項目・多文化共生事業について
報告者・石井美季
<p>＊議員個々の考察と見解＊</p> <p>国産ピアノ生産 100%の浜松市はピアノのみならず、様々なモノづくりのまちとして発展してきました。2022 年度の政令市幸福度ランキング 1 位になっているこのまちの経済や地域の活性化を支える外国人住民の活躍は大変興味深いものがあります。</p> <p>浜松市の外国人市民は約 2 万 8 千人で全市民の 3.4%、87 か国もの地域から移住者が在住しています。永住・定住などの在留資格保持者が 7 割を超え、定住化が顕著であり、浜松市の外国人市民がいかにここを気に入って住んでいるかがうかがえます。</p> <p>訪れたのは公益財団法人浜松国際交流協会(HICE)です。</p> <p>多言語に対応できる体制のなかでも、外国人相談窓口のきめ細やかさには目を見張るものがありました。相談窓口は「多文化共生総合相談ワンストップセンター」で対面での相談員で 7 か国語、テレビ電話通訳で 14 か国語に対応しています。3 年前からセンター内に外国人雇用サポートデスク開設し、さらにきめ細やかな対応を行っています。相談員の確保育成においても、様々な国や地域の文化や生活習慣に応じてかつ、浜松での暮らしがよくなるためのスキルを身に着けるためのアドバイスができるような研修があります。他部署との連携ではメンタルヘルス相談や雇用相談、法律に関する相談も充実しており、なるほど、幸福度の高いまちを感じました。</p> <p>視察研修に出かけていつも思うことですが、現地を訪れて初めて分かることが本当に多いです。その土地の温度や湿度、空気のおいや音を感じ、通りを往来する人や車、電車などを見て、そのまちを想う人の気持ちを考え、何気ないふれあいの時にかわす言葉からも、この研修の時間に得たものを恵庭でどう生かすか想像し、また、恵庭の良さも再確認する機会となっています。</p> <p>このような貴重な経験をさせていただけることに感謝申し上げます。</p>

視察研修先・神奈川県大和市
視察研修項目・大和市文化創造拠点シリウスの見学
報告者・太田 実保
<p>&lt;施設の概要&gt;</p> <p>大和市文化創造拠点シリウスは、図書館を中心に、芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内こども広場が入った複合施設として 2016 年に開館した。大和駅から徒歩 3 分とアクセスしやすいことから、子どもから高齢者まで幅広い世代の利用があり、開館からの利用者は 1800 万人を超えている。建物は 6 階建てで、1 階から 5 階までに図書が置いてあるが、フロアごとに異なるテーマで、本棚・机・椅子の色まで考えて設置されており「学ぶ」「出会う」「発見する」居心地の良い居場所として、多くの人々が訪れ、多世代が楽しく文化や芸術に触れる施設である。</p> <p>施設は、指定管理事業者やまともみらいにより運営されているが、芸術文化ホールはサントリーパブリシティサービス(株)、図書館は(株)図書館流通センター、生涯学習センターは(株)小学館集英社プロダクション、屋内こども広場は(株)明日香と(株)ポーネルンド、施設の維持管理は横浜ビルシステム(株)、と 6 社で構成されている。また、それぞれ館内に事務所があり、月 1 回連絡調整会議を行うなどしながら連携している。</p> <p>休館日は大晦日と正月の 1 日のみ。開館時間は 9 時～21 時となっている。また本は館内のどこでも読むことができ、飲み物、食べ物は自由でおしゃべりも可となっている。</p> <p>&lt;建設の経緯と建設費&gt;</p> <p>1990 年代、商業活性化のための「商業施設と住宅」という再開発計画が考えられていたが、2008 年のリーマンショックにより事業者が撤退した後、計画地の一部を市が所有していたことから、市民からの芸術文化ホールの要望にこたえる形で、図書館や生涯学習センターを移転した新たな複合施設を設置することになった。建設費は約 160 億円で、そのうち市が購入した部分は 147 億円。年間の維持費としては、指定管理者「やまともみらい」への指定管理料 7 億 9,800 万円の他に、区分所有によるビルの共同管理費用として光熱費などを支払っているとのことである。</p> <p>&lt;シリウスのコンセプト&gt;</p> <p>コンセプトに「居場所づくり」が位置づけられており、主役は本ではなく人で、本を読むということを大切にしながらも、笑顔で過ごせる場所にしたいと考えから、様々な工夫が凝らされている。その 1 つは座席数の多さであり、1000 席近くの座席は、仕切り線を表示したりカウンター席を多く設けるなど、どこに座ってもリラックスして過ごせるようになっている。また、健康都市としての取り組みから、健康コーナーも設けられ、生涯学習センターや健康都市大学の市民でつくる健康学部の講座などが数多く実施されている。</p> <p>&lt;考察と見解&gt;</p> <p>大和市の人口は 24 万人ということもあり、恵庭市とは人口規模や街の利便性が違うことか</p>

らも、一概に比較はできないが、図書館の複合化による都市の魅力づくりという視点から、図書館の機能や質や魅力向上を考えることは必要であると思う。

シリウスの施設全体は一つの図書館空間となっているが、誰もが利用しやすいようにゾーン化が図られていることは、参考になった。館内は、飲み物、食べ物は自由でおしゃべりも可であるが、こども図書館とちびっこ広場を同じフロアに設置したり、仕事や学習の場として利用できる1時間100円の有料席を設けたり、調べて学ぶ図書館コーナーは従来の静かな図書館として使えるようにするなど工夫が凝らされている。

複合施設として、図書館以外に芸術文化ホール等の様々な施設があることは、市民にとっては利用しやすい施設と考えられるが、人口が多く、交通の便が良い都会だからできるのではないかと思う面もある。ただ、コンセプトや考え方などには共感できる部分が多く、参考にしながら本市に置き換えていくことは可能であると思う。シリウスは、居心地よく過ごしてもらいたいと思ってあげていることが十分に伝わってくるような施設で、「主役は本ではなく人で、本を読むということを大切にしながらも、笑顔で過ごせる場所にしたい」という思いを大切にすることは、本市の図書館においても重要であると感じた。

図書館は多世代が集まり、交流するまちづくりの拠点となる施設であることから、本館改修の際には、今まで以上に教育文化機能を充実させ、市民ひとりひとりがいくつになっても、生き活きと過ごせることに寄与し、全世代に愛されるような図書館を目指してもらいたいと思う。

視察研修先・東京都港区
視察研修項目・港区立東町小学校の国際理解教育の取組について
報告者・太田 実保
<p>&lt;港区の国際理解教育の取組の概要&gt;</p> <p>港区では、国際コミュニケーション能力の育成を図る教育の推進として、平成 14 年度から、小学校で国際理解教育の一環として英語活動を実施している。そして平成 18 年度からは小学校 8 校で、平成 19 年度からは全校で教育課程に「国際科」を位置付け、外国人講師を各校に配置した。また、中学校では平成 18 年度から、英語によるコミュニケーション能力を図ることを目的とする週 1 時間の「英語科国際」を加え、週 5 時間の英語教育を実施している。</p> <p>また、小中学生海外派遣として、夏休み期間にオーストラリアへの海外派遣や、区立小学 5・6 年生、区立中学 1・2 年生を対象に、テンプル大学ジャパンキャンパスが実施する国内留学プログラムへの参加者を募集する国内留学プログラム、異文化体験授業などを行い、帰国児童・生徒や外国人児童・生徒のために日本語適応指導員を派遣なども行っている。</p> <p>さらに、大使館が多く立地する特性を生かし、大使館と連携した学習として、外国の文化や芸術に関する講話を聴いたり、児童生徒側からも日本文化を発信している。令和 5 年度からは、中学 3 年生の希望者を対象に TOEFL Junior を活用したオンラインレッスンも実施し、122 名が参加し、実践的コミュニケーション力を高めている。</p> <p>&lt;国際学級と日本語学級&gt;</p> <p>東町小学校と南山小学校の全学年には、外国人児童に多様な教育の機会を提供するため、通常学級に外国人児童を受け入れる ESC (English Support Course) を設置している。ESC の児童に対しては、英語で授業等を行うため、対象は港区在住の外国人児童 (外国籍のみ) で、英語能力を有する児童となっている。ESC を設置した学級には、日本人児童と外国人児童がともに在籍するが、国際学級講師 (EST=English Support Teacher) が配置され、EST は、ESC 児童に対して英語で授業等を行うため、日本人児童・外国人児童の双方が、多様な文化や価値観に触れることができる。そして、このように日本人児童・外国人児童が共に学ぶ学級を「国際学級」と呼んでいる。</p> <p>また、麻布小学校・筈小学校・六本木中学校には日本語学級を設置し、日本語能力が十分でない帰国児童や外国人児童に対し、日本語や生活習慣の習得、教科学習の指導を行っている。コロナ禍で、オンライン指導も可能になった。</p> <p>&lt;考察と見解&gt;</p> <p>港区は、国際色豊かな区の現状を踏まえて、独自の国際理解教育の取組を推進してきた。令和となった今、これまで以上に国際社会に対応できる国際人育成のため、港区グローバルスクール構想として、幼稚園期、小学校期、中学校期とそれぞれの段階での学びを充実させ、進化させようとしている。</p> <p>港区は外国籍の子どもの他、帰国子女が多いというのも特徴にあげられるが、この子どもたちが日本人児童と外国人児童の間に立つことで、休み時間などの交流が促進され、日本人児童</p>

たちは、外国人と一緒に過ごすことが自然にできるようになっている。

これは他市町村では、なかなか難しいとも思えるが、本市においても、タブレットを利用し Google の翻訳機能を使いながら、子どもたちは外国人の子どもと交流をしているので、ふれあう機会を積極的に作ることで、十分対応できると思われる。

また、ESC では地域人材を活用し、年間 10 回の土曜授業の中で、地域の人が先生となって日本の伝統文化である、お茶や太鼓などの体験しているが、このような地域人材の活用は、本市においても重要で、国際理解教育という目的だけではなく必要であると思われる。

さらに国際人材育成を目指すうえで、英語によるコミュニケーション能力を育成するだけでなく、日本の伝統的な遊びに取り組んだり、日本文化に親しむ気持ちを醸成し、日本の伝統文化を学ぶ教育を実施しているというところは見習うべきであり、発達段階に応じた自国、また他国の文化等について学ぶ機会を作っていきたいと思った。

しかし、これを学校の中だけで行うのは難しいと考えられることから、コミュニティ・スクールなどを活用し、地域の人材を活かしながら、このような体験、学びの機会を創出していけたらと思う。

視察後、東町小学校の HP を確認したところ、すべての記事ではないが日本語と英語が併記され、日課表や就学援助の案内など英文のものが用意されていた。今後、外国人児童が増えた場合、このような対応も必要になると思うが、その場合、学校や教育委員会だけの対応は難しいと思われるため、多言語に対応できるような部署、人員の必要性を強く感じた。

視察研修先・文部科学省初等中等教育局
視察研修項目・特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業について
報告者・太田 実保
<p>&lt;特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業の概要&gt;</p> <p>特定分野に特異な才能のある児童生徒は、その才能や認知・発達の特性等がゆえに、学習上・学校生活上の困難を抱えることがあると指摘されているが、これまで支援の取組はほとんど行われてきていない。2022年、有識者会議が開催され、特異な才能のある児童生徒に対する指導・支援の在り方を考えていくという方向性で議論が進められた。そして、有識者会議のまとめとして、児童生徒を取り巻く現状、指導・支援に関する課題、今後の取組の基本的な考え方が公表された。</p> <p>特異な才能に関する状況としては、言語、数理、科学、芸術、音楽、運動等、様々な領域に高い能力がみられ、特定の事柄への強い関心や、創造性や集中力、記憶力などに特性がみられる事例も報告された。また特性のために、学習や学校生活に関する困難を抱え、結果として児童生徒の中には不登校になったり、学校に通わない選択をしたりする場合もあり、対応が課題となっている。</p> <p>今後の取組の基本的な考え方としては、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の一環として支援策を考え、児童生徒が抱える学習上・生活上の困難に着目し、その解消を図ると共に、個性や才能を伸ばす、としている。その際は、何らかの特定の基準や数値によって才能を定義せず、学校現場が分断されたり、児童生徒が差別対象とならないように留意する。</p> <p>令和5年から予算として7700万円を確保し、研修パッケージの作成、特性を把握するツールやプログラム等のデータ収集・整理、指導・支援に関する実証研究、教職員・保護者を対象とする相談支援に関する実証研究が始まり、令和6年度も引き続き、理解のための周知研修、主砲・プログラムの情報集約、実証研究などを行う予定である。</p> <p>&lt;考察と見解&gt;</p> <p>特異な才能のある児童生徒の支援と言っても、定義がないため、全国的に潜在的にどれくらいの子供がいるのか把握されておらず、不登校児童や発達障がいとの関係も調べていないとのことなので、今後、学校現場や保護者がどう対応していくべきなのか、全くわからない。ただ、教職員向けの研修パッケージを開発するとのことなので、まずは教員の理解が得られるようになることを願う。そして、同時に相談支援の充実、相談を受ける立場の人の育成も必要だと思うが、定義がない以上、本市においても、どれくらい必要としている人がいるのかを把握するのは難しい。ただ、多様性を認め合う個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実というのは、すべての児童生徒において必要なことであり、それは学校だけで行うことではなく、学校外での体験や学びを充実させることにより、多様な子どもが育つ土壌を作ることが重要であると思われる。</p>

視察研修先・静岡県浜松市
視察研修項目・多文化共生について
報告者・太田 実保
<p>&lt;浜松市の外国人の状況&gt;</p> <p>政令指定都市である浜松市の人口は約 80 万人であるが、そのうち外国人市民は 27000 人ほど、人口比率は 3.4%となっている。1990 年の改正入管法施行を機に南米日系人を中心に外国人が急増し、ブラジルなどの南米出身者が多かったが、近年はアジア系出身者も増え、多国籍化が進んでいる。特徴的なのは、永住者や定住者など長期滞在が可能な身分系在留資格の割合が 7 割を超えているというところである。</p> <p>2013 年に策定された、浜松市多文化共生ビジョンをもとに、多文化共生の取組を充実させ、外国人材の活用や、日本語教育の推進、支援体制の構築、危機管理体制の強化などが行われ、デジタルツールの活用や DX も推進している。</p> <p>外国人の相談窓口は、多言語相談体制で、浜松市多文化共生センターが管理運営業務を行っているが、町内他部署や他機関とも連携し、様々な相談に応じている。</p> <p>&lt;浜松市多文化共生センター&gt;</p> <p>1982 年、任意団体として浜松国際交流協会を設立し、浜松商工会議所内に事務局を開設した。財団法人化のため浜松国際交流基金を創設した後、1991 年財団法人浜松国際交流協会として改組した。1992 年には、浜松市が浜松市国際交流センターを開設し、管理運営業務を受託し、2008 年に浜松市多文化共生センターへ名称変更した。</p> <p>公益財団法人浜松国際交流協会は、略称HICE(ハイス)として、浜松市における市民レベルでの国際交流及び多文化共生の推進母体として、様々な機関とも協力しながら、情報提供、相談業務、文化紹介などの各種講座研修やイベントなどを行い、浜松市からの委託を受け、多文化共生センターを運営し、多言語による相談をはじめとした様々な事業に取り組んでいる。</p> <p>&lt;考察と見解&gt;</p> <p>外国人のための相談体制も重要であるが、多文化共生という視点から、地域共生のため、多文化防災訓練や日本語ボランティア養成講座などの人材育成、外国につながる次世代の学習支援など、様々な多様性を生かしたまちづくりを行っており、それは誰もが暮らしやすいまちづくりになると思った。今後、本市でも外国人が増加すると考えられているが、おしゃべりしながら交流を深めたり、それぞれの異文化を体験しながら学び合う機会を作っていけたら良いと思うし、そのような市民活動に対する支援も必要であると思われる。また、相談体制を構築する際には、外国人の感覚を理解できる人が重要であり、外国をルーツとする人の登用なども求められる。多言語対応というのは難しいかもしれないが、HP を翻訳させるだけではなく、少なくとも英語での窓口対応と英語表記の資料は早急に必要であると思われる。</p>

視察研修先・神奈川県大和市

視察研修項目・大和市文化創造拠点シリウスの見学

報告者・三上 まどか（翡翠会）

### 【概要】

この施設は2016年に建てられた図書館、芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内こども広場を中心とした文化複合施設です。1階～6階までの各フロアがテーマ別に構成されており、子供から大人まで多くの人々が芸術文化や生涯学習のすばらしさ、新しい知識の学び、心弾むような出会いが生まれるにふさわしい、デザイン性に富んだ施設である。



- 1階 感動が生まれる感性と創造の場
- 2階 楽しく語り集う市民交流のフロア
- 3階 思い切り遊んで学ぶ大和こどもの国
- 4階 くつろぎながら本に親しむ健康都市図書館
- 5階 調べて学ぶ図書館
- 6階 仲間と集い学ぶ生涯学習センター



### 【考察と見解】

『文化創造の拠点』とは何か。

それは、ただ施設をつくることだけではなく、創造力を描き立たせるような五感に響くデザイン性や、空間造作がとても重要だと考えさせられた。まさに、～心に響く・心が躍る・心をつなぐ～をテーマに大和市が創り出したこの施設からは、4施設の個性融合のエネルギーを感じ、そして、未来につながる創造力を育む場として芸術文化活動の道しるべとなる力強い覚悟さえも感じた。また、指定管理にはサントリー社、小学館集英社、ポーネルド社等それぞれが持つ高度な専門性や運営スキルが活用されており、その特色も随所に現れていた。施設規模は別としても文化創造の拠点として、赤ちゃんから高齢者まで楽しめるような次世代の文化複合施設は恵庭市にも必要と考える。

視察研修先・東京都港区
視察研修項目・港区立東町小学校の国際理解教育の取組について
報告者・三上 まどか（翡翠会）
<p><b>【概要】</b></p> <p>港区の国際理解教育とは「我が国の文化や伝統を理解し、日本人として誇りをもつ一方で、異なる文化に触れ、自国文化との違いを認め、尊重する態度を培う教育」と定義し、その推進を図るために様々な事業を展開している。</p> <p>1, 「国際科」「英語科国際」の授業実施</p> <p>港区立の小学校では H14 年度から国際理解教育の一環として英語活動を実施。この実績をもとに、H18 年度から小学校 8 校、H19 年度からは全 18 校で教育課程に国際科を位置づけ外国人講師ネイティブティーチャーを各校に配置し英語による実践的コミュニケーション能力の基礎を培っている。</p> <p>2, 海外派遣の実施</p> <p>H19 年から港区立の小中学校の児童生徒をオーストラリアに派遣。外国の自然、文化、社会に直接触れることでコミュニケーション能力の実践の場の提供、及び自国他国を尊重する態度の育成を図っている。事業成果報告は派遣児童生徒に留めることなく、多くの区民の方々に向け発信している。</p> <p>3, 区内大学との連携</p> <p>テンプル大学との連携事業として国内留学プログラムや異文化体験授業を実施しており夏季休業中に実施することで児童生徒も複数人参加している。異文化体験事業では留学生から様々な国の文化を紹介してもらい我が国と異なる文化について理解を深めている。</p> <p>4. 放課後英会話教室の実施</p> <p>R5 年度から中学 3 年生希望者を対象に、TOEFLJunior を活用した 50 分のオンライン授業を通じて英語の発話機会を確保することでコミュニケーション能力を向上させ諸外国文化や価値観の多様性に触れる機会を提供している。</p> <p><b>【考察と見解】</b></p> <p>港区は大使館や領事館が多く、もともと外国人住民は多かったが港区立東町小学校は H21 年度には児童数が 58 人まで減り廃校の危機があったが、「国際学級」の開設により現在は 16 学級 461 人まで回復し、国際理解教育を全国に先駆けて実施している。学校の歴史からもわかるとおり、これらの事業を通して子供たち一人ひとりの個性や能力を伸ばし、国際社会に貢献する態度とコミュニケーション能力を備えた世界で活躍できる真の国際人を育成している学校の環境こそが未来の子供たち、そして日本の財産ではないだろうか。また、伝統を重んじ創意ある教育活動として、地域の特性や地域人材をゲストティーチャーに迎え、日本の伝統文化を学ぶ教育を各学校で実施している事も、地域を巻き込んだ国際教育の取り組み事例として目を引くものがあつた。今後の恵庭市でも様々な影響から外国人移住者が増えることが予想される中、独自の教育プログラムを考え国際理解教育が推進できる環境をつくることは極めて重要と考える。</p>

視察研修先・文部科学省初等中等教育局
視察研修項目・特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業について
報告者・三上 まどか（翡翠会）
<p><b>【概要】</b> 有識者会議の内容</p> <p>1, 特異な才能のある児童生徒をめぐる現状</p> <p>上記の児童生徒は言語、数理、芸術、音楽、運動など様々な領域に高い能力を示す。社会問題など特定の事柄に強い関心を示したり、強い感受性過敏な五感など認知発達の特徴を示すこともあり障害を併せ有する場合もある。</p> <p>2, 指導、支援に関する課題</p> <p>学習面では、内容が知っていることばかりでつまらなく、わからないふりをしていた事例もあり資質や能力を伸ばせない。生活面では知的側面が年齢不相応に発達しているため同級生とのコミュニケーションに困難が生じる場合がある。結果、不登校になりがち。</p> <p>3, 今後の取り組みの基本的な考え方</p> <p>◎多様な児童生徒に応じ個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の一環として支援策を考える</p> <p>◎特異な才能のある児童生徒が抱える学習上、生活上の困難に着目しその解消を図る。そして個性や才能を伸ばす。</p> <p><b>【考察と見解】</b></p> <p>上記の会議により審議まとめから、留意点としては『特定の基準や数値によって才能を定義しない』とされ、学校の分断や特異な才能のある児童生徒が差別対象とならないように配慮されたようであるが、対応は非常に困難だと感じた。R5 年度から委託先の 8 団体による実証的な研修が実施され実践事例を蓄積していく取り組み段階なのでこれからの動向を見守る形になる。特異な才能ある児童生徒を含むすべての子供たちが自らの理解程度や知的好奇心に応じて積極的に学習に取り組み、お互いの特性や良さを認め合い、安心して学校生活を送れるようになることを願って、恵庭市でも同じ方向性をもって取り組むことが大切だと考える。</p>

視察研修先・静岡県浜松市	
視察研修項目・多文化共生について	
報告者・三上 まどか（翡翠会）	
<p><b>【概要】</b></p> <p>浜松市は楽器産業、輸送用機器産業、近年めざましい発展を遂げている光技術や電子技術などの先端技術産業など世界市場でも高い評価を受けている企業が多数立地するものづくりが盛んな都市であり、このような活発な産業経済活動を背景に外国人市民は 2 万 7 千人が住み暮らす国内最多の外国人コミュニティをもつ地域です。</p> <p>2023 年からの 5 年間で第 3 次浜松市多文化共生都市ビジョンを策定し、①協働②創造③安心を背策の 3 分野として相互の理解と尊重のもと、創造と成長を続ける、ともに築く多文化共生都市を目指し、パートナーシップによる多文化共生の推進に取り組んでいる。</p>	
① 協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オール浜松での取り組み推進</li> <li>・多文化共生のための教育・啓発</li> <li>・交流機会の充実による相互理解の推進</li> <li>・多様性のある李域活動の推進</li> </ul>
② 創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代の育成・支援</li> <li>・多様性を生かした文化・創造活動の推進</li> <li>・多様性を生かした地域の活性化</li> <li>・他都市や関係機関との連携推進</li> </ul>
③ 安心	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理対策</li> <li>・コミュニケーション支援</li> <li>・地域共生支援</li> <li>・安心な暮らしの確保</li> </ul>
<p>☆重点取り組み☆ ～デジタルツールの活用促進。D X の推進～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人材の活躍推進</li> <li>・総合的、体系的な日本語教育の推進</li> <li>・日常生活やライフステージに応じた支援体制の構築</li> <li>・危機管理体制の強化</li> </ul>	
<p><b>【考察と見解】</b></p> <p>多文化共生の先進地として、浜松市では国際的なシンポジウムやフェスティバル、無料の日本語教室などが毎週のように開催されており活動の活発さが伺えた。特に印象的だったのは日本人 10 代から 30 代の若者向けの正確な日本語を学ぶキャリアアップセミナー</p>	

が開催されており、普段使っている日本語文法や敬語を見直したり、平易な語彙だけ使っている会話をブラッシュアップする内容であったりと、私たち日本人が日本語の講師になれるような取り組みを実施していた。多文化共生とは、異文化を受け入れ自国のすばらしさにも気づきそして共生するという素晴らしい環境だと感じた。課題もちろんあるが、外国人人口が急増している恵庭市としてもビジョンをもって仕組みを推進していく必要があると考える。

